

GA-SINXP1394
P4 Titan DDR マザーボード

ユーザーズマニュアル

Pentium®4 プロセッサマザーボード
改訂1002

目次

アイテムのチェックリスト	3
警告!.....	3
第1章 はじめに	4
機能の概要	4
GA-SINXP1394マザーボードのレイアウト.....	7
第2章 ハードウェアの取り付けプロセス	8
ステップ1: 中央処理装置(CPU)の取り付け	9
ステップ1-1 : CPUの取り付け	9
ステップ1-2 : CPUヒートシンクの取り付け	10
ステップ2: メモリモジュールの取り付け	11
ステップ3: 拡張カードの取り付け	13
ステップ3-1: AGPカードの取り付け	13
ステップ3-2: DPVRM (デュアル電圧レギュレータモジュール) の取り付け	14
ステップ4: リボンケーブル、キャビネットワイヤ、電源装置の接続	15
ステップ4-1: I/O 背面パネルの概要	15
ステップ4-2: コネクタの概要.....	17



本書に訂正がある場合、英語版に従ってください。

アイテムのチェックリスト

- | | |
|--|--|
| ☒ GA-SINXP1394マザーボード | ☒ 2 Port USB Cable x 2 |
| ☒ マザーボードドライバとユーティリティ用CD | ☐ 4ポートUSBケーブル x 1 |
| ☒ GA-SINXP1394ユーザーズマニュアル | ☒ SPDIFキット x 1 (SPD-KIT) |
| ☒ クイックPC取り付けガイド | ☒ SATAケーブル x2 |
| ☒ ITE RAIDマニュアル | ☒ I/Oシールド |
| ☒ SATA RAIDマニュアル | ☒ マザーボード設定ラベル |
| ☒ IDEケーブル x3 / フロッピーケーブル x 1 | ☐ GC-S1394カード(オプション) |
| ☐ GC-SATAカード(オプション) | (マニュアル) |
| (マニュアル ; SATAケーブル x1 ; 電源ケーブル x 1) | |



警告!

コンピュータのマザーボードと拡張カードには、きわめて精巧な集積回路(IC)のチップが組み込まれています。この集積回路が静電気により損傷しないように、コンピュータを操作するときは、常に次の注意事項を守る必要があります。

1. コンピュータの内部を操作するときは、コンピュータの電源を抜く。
2. コンピュータのコンポーネントを取り扱う前に、アースされたリストバンドを付ける。お持ちでない場合は、安全にアースされた物体か、電源装置のケースなどの金属物体に両手を置いてください。
3. コンポーネントの両端をつかみ、ICチップ、リード線やコネクタ、またはその他のコンポーネントに触れないようにする。
4. コンポーネントをシステムから取り外すとき、コンポーネントはアースされた静電気防止パッドの上、またはコンポーネントに付属する袋の上に置く。
5. マザーボードのATX電源コネクタをコンセントにつないだりコンセントから抜く前に、ATX電源のスイッチをオフにしていることを確認する。

マザーボードをシャーシに取り付ける...

マザーボードの取り付け穴が台の穴に揃っていない場合、またはスペーサーに接続するスロットがない場合、心配するには及びません。以下の方法で、取り付け穴にスペーサーを取り付けることができます。スペーサーの下部分を切り取り、スペーサーはとても堅いので、手を傷つけないように注意してください。このようにして、ショート心配をすることなしにマザーボードを台に取り付けることができます。マザーボードのPCB面からネジを絶縁するためにプラスチックのリングを使用する必要があるときどきありますが、これは回路のワイヤが穴の傍にあるためです。固定穴の傍にあるPCBの回路書き込みやパーツにネジが触れないように注意してください。そうでないと、ボードが破損したり、ボードが誤作動を引き起こす原因となります。

第1章 はじめに

機能の概要

フォームファクタ	30.5cm x 24.4cm ATXサイズ of フォームファクタ、6層PCB
CPU	- Intel® Micro FC-PGA2 Pentium® 4プロセッサ用Socket 478 - Intel® Pentium® 4 (Northwood, 0.13μm)プロセッサをサポート - HTテクノロジーを搭載したIntel® Pentium® 4プロセッサをサポート - Intel Pentium®4 400/533MHz FSB - CPUに依存する2番目のキャッシュ
チップセット	- SiS 655ホスト/メモリコントローラ - SiS 963 MuTIOLメディアI/O
メモリ	4 184ピンDDR DIMMソケット - デュアルチャネルDDR400^{<Note 1>}/DDR333/DDR266 DIMMをサポート 128MB/256MB/512MB/1GBバッファなしDRAMをサポート 4GB DRAM (最大)までをサポート 2.5V DDR DIMMのみをサポート
I/Oコントロール	IT8705F
スロット	1つのAGP 3.0スロットが8X/4Xモードをサポート 5つのPCIスロットが33MHz & PCI 2.2準拠をサポート
オンボードIDE	2つのIDEコントローラがPIO、バスマスタ (Ultra DMA33/ATA66/ATA100/ATA133)操作モード搭載のIDE HDD/CD-ROM (IDE1, IDE2) を提供 - RAID, Ultra ATA133/100, EIDEと 互換性のあるIDE3とIDE4
シリアルATA	150 MB/秒操作モードの2つのシリアルATAコネクタ - Silicon Image SiI3112Aで制御される

続

<注1> DDR400の推奨メモリモジュールはGIGABYTEのWebサイトに一覧表示されています。

オンボード周辺装置	• 1つのフロッピーポートが360K、720K、1.2M、1.44M、2.88M/バイトの2つのFDDをサポート • 1つのパラレルポートが標準/EPP/ECPモードをサポート • 2つのシリアルポート(COMA&COMB) • 6つのUSB 2.0/1.1ポート(ケーブルによる2 x 背面、4 x 前面) • 1つのフロントオーディオコネクタ • IR用1つのIrDAコネクタ
ハードウェアの監視	• CPU/システムファン回転の検出 • CPU/システムファンの障害警告 • CPU過熱の警告 • システム電圧の検出
オンボードサウンド	• Realtek ALC650 CODEC • ラインアウト / 2つの前面スピーカー • ラインイン / 2つの背面スピーカー(s/wスイッチによる) • Micイン / センター& サブウーファ(s/wスイッチによる) • SPDIFアウト / SPDIFイン • CDイン / AUX_IN / ゲームポート
オンボードRAID	• オンボードITE IT8212F • データストライピング(RAID 0)またはミラリング(RAID 1)またはストライピング+ミラリング(RAID 0+RAID 1)をサポート • JBOD機能をサポート • 並行デュアルATA133 IDEコントローラの操作をサポート • HDD用のATAPIモードをサポート • IDEバスマスタ操作をサポート • BIOSによるATA133/RAIDモードスイッチをサポート • 起動中にステータスおよびエラーチェックメッセージを表示 • ミラリングが自動バックグラウンドリビルドをサポート • コントローラオンボードBIOSのLBAと拡張割込13ドライブ変換を特色とする
オンボードLAN	• 内蔵のIntel® RC82540EM (KENAI 32)チップセット • 1 RJ45ポート
PS/2コネクタ	• PS/2キーボードインターフェイスとPS/2マウスインターフェイス

続

BIOS	• ライセンスを所有するAWARD BIOS、2MビットのフラッシュROM • デュアルBIOS / Qフラッシュをサポート
追加機能	• パスワードによるPS/2キーボードの電源オン • PS/2マウスの電源オン • STR(サスペンド 対RAM) • AC回復 • S3からUSB KB/マウスの呼び起こし • キーボードの過電流保護用のポリヒューズ • EasyTune 4をサポート • @BIOSをサポート
オーバークロック	• BIOSによる 過電圧(CPU/DRAM/AGP)

HT機能要件の内容

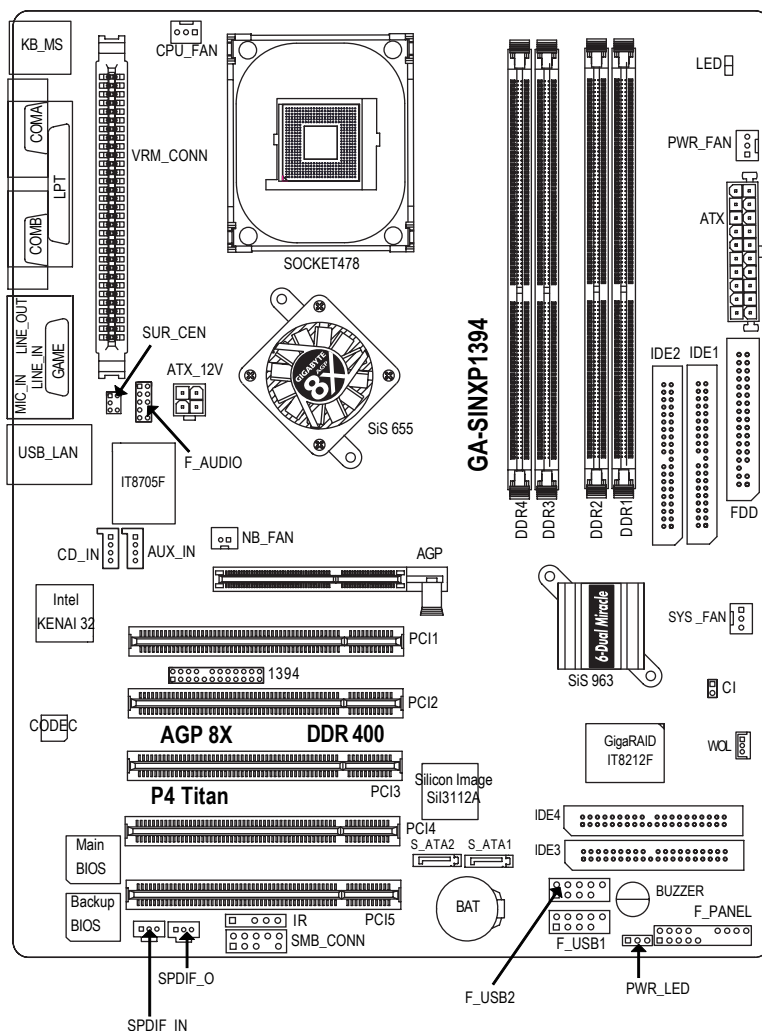
"コンピュータシステムに対してハイパースレッディングの機能を有効にするには、次のプラットフォームコンポーネントがすべて必要になります：

- CPU: HTテクノロジーを採用したIntel® Pentium 4プロセッサ
- チップセット: HTテクノロジーをサポートするSiS®チップセット
- BIOS: HTテクノロジーをサポートしそれを有効にするBIOS
- OS: HTテクノロジー用に最適化されたオペレーティングシステム



お使いのプロセッサの仕様に従ってCPUのホスト周波数を設定してください。CPUの仕様を超えたシステムバスの周波数を設定することはお勧めしません。これらの特殊なバス周波数はCPU、チップセットおよびほとんどの周辺装置の標準仕様ではありません。お使いのシステムがこれらの特殊なバス周波数の元で正しく動作するかどうかは、CPU、チップセット、SDRAM、カードなどのハードウェア構成によって異なります。

GA-SINXP1394マザーボードのレイアウト



日本語

第2章 ハードウェアの取り付けプロセス

コンピュータをセットアップするには、次のステップを完了する必要があります：

ステップ1- 中央演算処理装置(CPU)を取り付けます

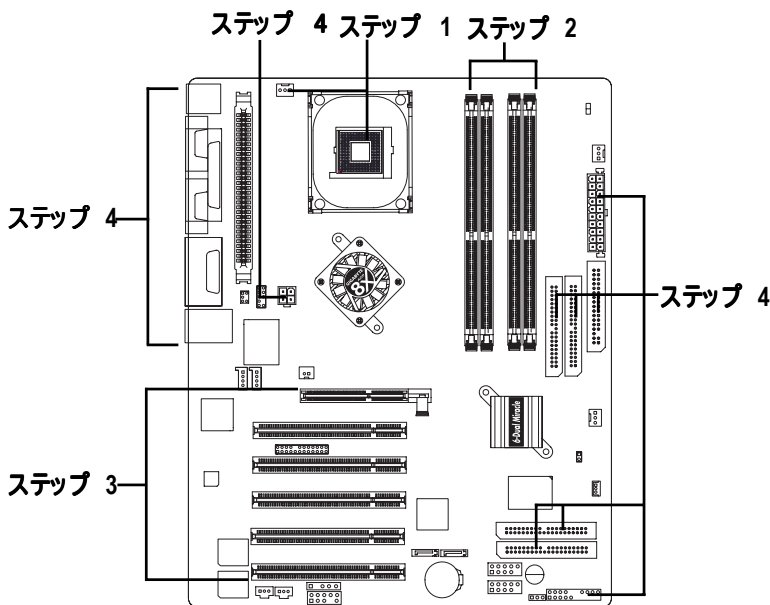
ステップ2- メモリモジュールを取り付けます

ステップ3- 拡張カードを取り付けます

ステップ4- リボンケーブル、キャビネットワイヤ、電源装置を接続します

ステップ5- BIOSソフトウェアをセットアップします

ステップ6- サポートするソフトウェアツールをインストールする

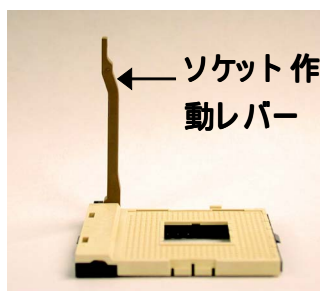


ステップ1: 中央処理装置(CPU)の取り付け

ステップ1-1: CPUの取り付け



1. ロッドの動きは65度までは少し堅く感じるかもしれません。そのままロッドを90度まで引き上げると、きこむような音がします。



2. ロッドを90度の角度まで引き寄せます。



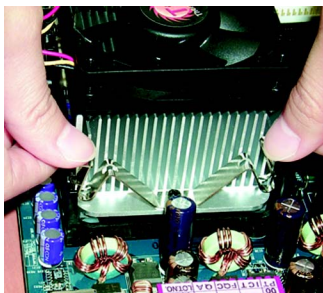
3. CPUの上面ビュー



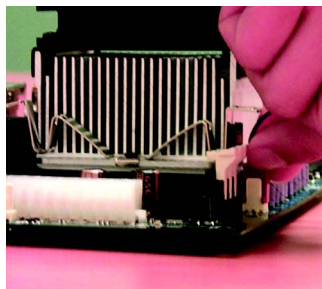
4. ソケットのピン1を探し、CPUの上部の金色のカットエッジを見つけたら、CPUをソケットに差し込みます。

- ※ CPUのタイプがマザーボードでサポートされているものであることを確認してください。
- ※ CPUソケットのピン1とCPUのカットエッジが一致しないと、取り付けはうまくいきません。挿入方向を変えてください。

ステップ1-2 : CPUヒートシンクの取り付け



1. まず、クーラーブラケットの一方の端をCPUソケットにフックで留めます。

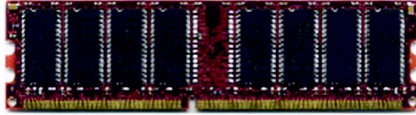


2. クーラーブラケットのもう一方の端をCPUのソケットにフックで留めます。

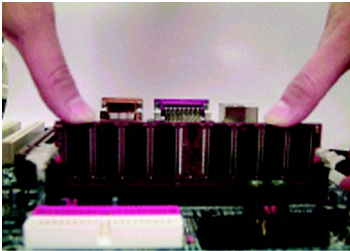
- ※ Intel公認のクーリングファンを使用してください。
- ※ CPUとヒートシンクの熱伝導を良くするために、感熱テープをご使用になるようにお勧めします(CPUクーリングファンは、感熱糊の硬化によってCPUにしっかり固定されることがあります。このとき、クーリングファンを取り外そうとすると、クーリングファンと共にCPUソケットからプロセッサだけが外れ、そのためプロセッサが破損することがあります。これを防ぐために、感熱糊の代わりに感熱テープを使うか、細心の注意を払ってクーリングファンを取り外すようお願いいたします)。
- ※ CPUファンの電源ケーブルがCPUファンのコネクタに差し込まれていることを確認します。これで、取り付けは完了しました。
- ※ 取り付け手順の詳細については、CPUヒートシンクのユーザーズマニュアルを参照してください。

ステップ2: メモリモジュールの取り付け

マザーボードには4つのデュアルインラインメモリモジュール(DIMM)ソケットが搭載されています。BIOSはメモリのタイプとサイズを自動的に検出します。メモリモジュールを取り付けるには、DIMMソケットに垂直に差し込みます。DIMMモジュールはノッチがあるために一方向にしかフィットしません。メモリサイズはソケットごとに異なります。



DDR



1. DIMMソケットにはノッチがあるため、DIMMメモリモジュールは一方向にしかフィットしません。
2. DIMMメモリモジュールをDIMMソケットに垂直に差し込み、下に押し込みます。
3. DIMMソケットの両端にあるプラスチックのクリップを閉じて、DIMMモジュールをロックします。DIMMモジュールを取り外すときは、取り付け手順の反対の操作を行ってください。

●※ LEDがオンになっているとき、ソケットにDIMMを取り付けたりソケットからDIMMを取り外したりしないでください。

●※ DIMMモジュールはノッチがあるため、一方向にしかフィットしません。間違った方向に差し込むと、取り付けをうまく行えません。差し込む方向を変えてください。

DDR の概要

既存のSDRAM産業インフラストラクチャに基づいて確立されたDDR(ダブルデータ転送速度)メモリは、高性能かつコストパフォーマンスに優れたソリューションで、メモリベンダー、OEM、システム統合者はこれを簡単に採用できるようになっています。

DDRメモリは、既存のSDRAMインフラストラクチャに基づいて構築されたPC産業界向けの実用的で革新的なソリューションでありながら、メモリバンド幅を2倍にすることによって、システムパフォーマンスのボトルネックを解決する上で素晴らしい進歩を成し遂げています。DDR SDRAMはその可用性、価格設定、市場全体のサポートによって、既存のSDRAM設計から優れたソリューションと移行パスを提供します。PC2100 DDRメモリ(DDR266)は、クロックの立ち上がりと立ち下りの両方における読み込みと書き込みを通してデータ転送速度を2倍にし、同じDRAMクロック周波数で実行しているとき、PC133の2X以上のデータバンド幅を達成しています。毎秒2.664GBのピークバンド幅を使用して、DDRメモリはシステムOEMを有効にしながら、サーバー、ワークステーション、ハイエンドなPC、パルチータデスクトップSMAシステムに適した高性能かつ低い待ち時間のDRAMサブシステムを構築します。従来のSDRAMの3.3ボルトに比べ格段に低い2.5ボルトのコア電圧により、DDRメモリは小さなフォームファクタデスクトップとノートブックアプリケーション向けの強力なソリューションとなっています。

GA-SINXP1394はデュアルチャネルテクノロジーをサポートしています。デュアルチャネルテクノロジーを作動すると、メモリバスのバンド幅は2倍に増加して5.4GBGB/秒になります。

GA-SINXP1394には4つのDIMMソケットが搭載されており、各チャネルには次のように2つのDIMMソケットがあります：

- ▶ チャネルA：DIMM 1、DIMM 2
- ▶ チャネルB：DIMM 3、DIMM 4



デュアルチャネルテクノロジーを使用したい場合、SiS®チップセット仕様の制限に起因する次の説明に注意してください。

1. 取り付けられているDDRメモリモジュールが1つだけの場合：デュアルチャネルテクノロジーは、取り付けられているDDRが1つしかないと、作動できません。
2. 取り付けられているDDRメモリモジュールが2つの場合（同じメモリサイズとタイプ）：デュアルチャネルテクノロジーは、2つのメモリモジュールがチャネルAとBに個別に差し込まれているときに作動します。2つのメモリモジュールを同じチャネルに差し込むと、デュアルチャネルテクノロジーは作動しません。さらに、システムを起動できるのはメモリの1つがチャネルAまたはチャネルBに差し込まれているときだけです。他方、メモリモジュールは任意のソケットに差し込む必要があります。
3. 取り付けられているDDRメモリモジュールが3つの場合：3つのメモリモジュールを同時に取り付けると、デュアルチャネルテクノロジーはこれらのモジュールが同じメモリサイズとタイプのときのみ作動します。
4. 取り付けられているDDRメモリモジュールが4つの場合：4つのメモリモジュールを同時に取り付けると、デュアルチャネルテクノロジーは、これらのモジュールが同じメモリサイズとタイプのときのみ作動します。

デュアルチャネルテクノロジーが機能できるように、同じ色のDIMMに2つのDDRメモリモジュールを取り付けるよう、強く推奨します。

次の表には、インストールされたメモリのすべての組み合わせのタイプが含まれています：（表に載っていないタイプは、起動しないことにご注意ください）。

● 図1：デュアルチャネルテクノロジー(DS：両面、SS：片面)

	DIMM 1	DIMM 2	DIMM 3	DIMM 4
2つのメモリモジュール	DS/SS	X	DS/SS	X
	DS/SS	X	X	DS/SS
	X	DS/SS	DS/SS	X
	X	DS/SS	X	DS/SS
3つのメモリモジュール	DS/SS	DS/SS	DS/SS	X
	DS/SS	DS/SS	X	DS/SS
	DS/SS	X	DS/SS	DS/SS
	X	DS/SS	DS/SS	DS/SS
4つのメモリモジュール	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

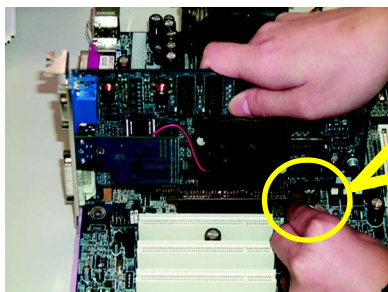
- 図2: デュアルチャネルテクノロジーを操作しません(DS: 両面、SS: 片面)

	DIMM 1	DIMM 2	DIMM 3	DIMM 4
1つのメモリモジュール	DS/SS	X	X	X
	X	DS/SS	X	X
	X	X	DS/SS	X
	X	X	X	DS/SS
2つのメモリモジュール	DS/SS	DS/SS	X	X
	X	X	DS/SS	DS/SS

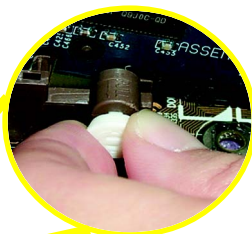
ステップ3: 拡張カードの取り付け

ステップ3-1: AGPカードの取り付け

1. コンピュータに拡張カードを取り付ける前に、関連する拡張カードの取扱説明書をよく読みください。
2. コンピュータからコンピュータのシャーシカバー、必要なネジ、スロットブラケットを取り外します。
3. 拡張カードをマザーボードの拡張スロットにしっかり押し込みます。
4. カードの金属接合部がスロットに固定されていることを確認します。
5. 再びネジを取り付けて、拡張カードのスロットブラケットをしっかりと締め付けます。
6. コンピュータのシャーシカバーを元に戻します。
7. コンピュータの電源をオンにし、必要に応じて、BIOSから拡張カードのBIOSユーティリティをセットアップします。
8. オペレーティングシステムから関連するドライバをインストールします。



AGPカード

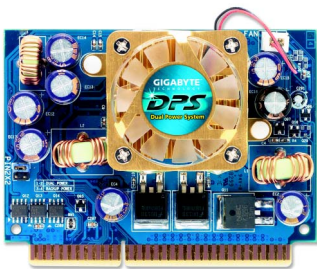


AGPカードの取り付け/取り外しを試みるときに、AGPスロットの端にある小さな白い引き抜き可能バーを慎重に引き出してください。オンボードAGPスロットをAGPカードの位置を合わせ、スロットにしっかりと押し込みます。AGPカードが小さな白い引き抜き可能バーによってロックされていることを確認してください。

ステップ3-2: DPVRM (デュアル電圧レギュレータモジュール) の取り付け

DPVRMとは何か？

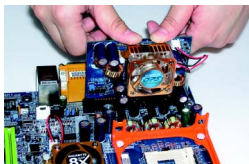
DPVRM (デュアル電圧レギュレータモジュール)とは、DPS (デュアル電源システム)機能を提供できるドーターカードです。合計6フェーズの電源回路設計を供給するクールで上品なネオンプレーのDPVRMは、新世代のIntel®プラットフォームに高い耐久力のある電源設計を実現します。



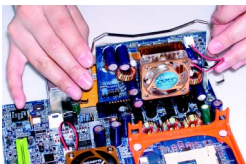
DPVRMは、デュアル電源システムで作動します：

- パラレルモード：
DPVRMとマザーボードCPUの電源は同時に作動して、合計6フェーズの電源回路を提供します。

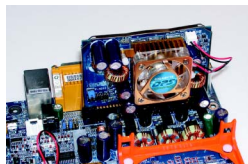
DPVRMは、どうやって取り付けるのか？



ステップ1



ステップ2

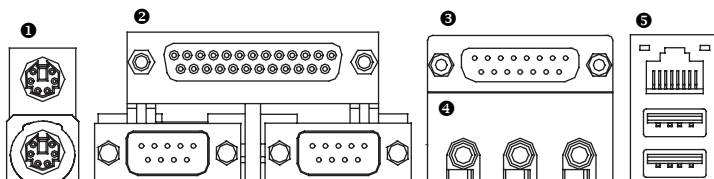


ステップ3

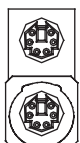
1. DPVRMコネクタにはノッチがあるため、DPVRMは一方方向にしかフィットしません。
2. DPVRMをソケットに垂直に差し込み、下に押し込みます。
3. DPVRMをクリップでマザーボードに固定します。
4. DPVRMを取り外すときは、取り付けステップの反対の操作を行ってください。

ステップ4: リボンケーブル、キャビネットワイヤ、電源装置の接続

ステップ4-1: I/O背面パネルの概要



① PS/2キーボードとPS/2マウスコネクタ

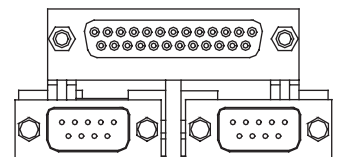


PS/2マウスコネクタ
(6ピンメス)
PS/2キーボードコネクタ
(6ピンメス)

➤ このコネクタは、標準のPS/2キーボードとPS/2マウスをサポートしています。

② パラレルポートとシリアルポート(COMA/COMB)

パラレルポート(25ピンメス)



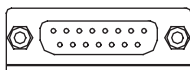
COMA

COMB

シリアルポート(9ピンオス)

➤ このコネクタは2つの標準COMポートと1つのパラレルポートをサポートしています。プリンタのようなデバイスは、パラレルポートに接続できます。マウスやモデムなどは、シリアルポートに接続できます。

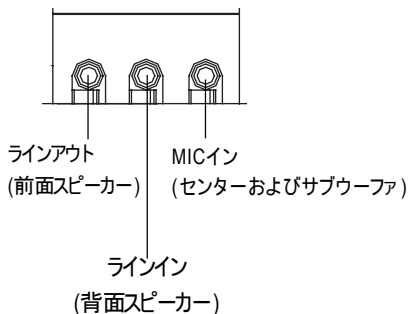
③ ゲーム /MIDIポート



ジョイスティック/MIDI (15ピンメス)

- このコネクタはジョイスティック、MIDIキーボード、およびその他の関連オーディオデバイスをサポートしています。

④ オーディオコネクタ



- オンボードオーディオドライバをインストールした後、スピーカーをラインアウトジャックに、マイクをMICインジャックに接続できます。CD-ROM、ウォークマンなどのデバイスは、ラインインジャックに接続できます。

注:

S/W選択により、2-/4-/6-チャンネルオーディオ機能を使用できます。

6チャンネル機能を有効にしたい場合、2通りのハードウェア接続を選択できます。

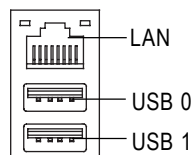
方式1:

"フロントスピーカー"をラインアウト"に接続し"スピーカー"をラインイン"に接続し"センターとサブウーファ"をMICアウト"に接続します。

方式2:

オプションのSUR_CENケーブルについては、22ページを参照するか、最寄りの販売店にお問合せください。

⑤ USB & LANコネクタ



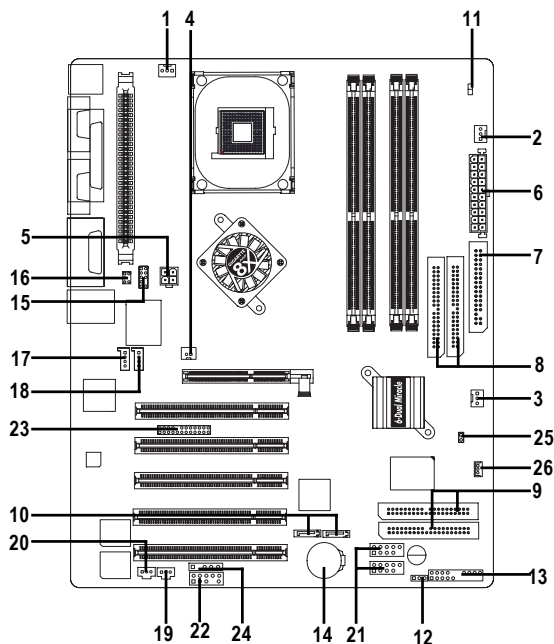
- デバイスをUSBコネクタに接続する前に、USBキーボード、マウス、スキャナ、zip、スピーカーなどのデバイスが標準のUSBインターフェイスを搭載しているか確認してください。

また、お使いのOSがUSBコントローラをサポートしていることも確認してください。OSがUSBコントローラをサポートしていない場合、OSベンダーに連絡してパッチやドライバをアップグレードしてください。詳細については、OSまたはデバイスベンダーにお問合せください。



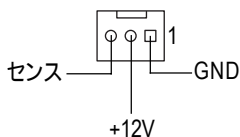
2-/4-/6チャンネルのオーディオセットアップのインストールに関する詳細が必要な場合は、82ページを参照してください。

ステップ4-2: コネクタの概要



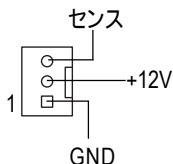
1) CPU_FAN	15) F_AUDIO
2) PWR_FAN	16) SUR_CEN
3) SYS_FAN	17) CD_IN
4) NB_FAN	18) AUX_IN
5) ATX_12V	19) SPDIF_O
6) ATX	20) SPDIF_IN
7) FDD	21) F_USB1/F_USB2
8) IDE1/IDE2	22) SMB_CONN
9) IDE3/IDE4	23) 1394
10) S_ATA1/S_ATA2	24) IR
11) LED	25) CI
12) PWR_LED	26) WOL
13) F_PANEL	
14) BAT	

1) CPU_FAN (CPUファンコネクタ)



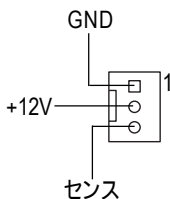
- CPUが異常な状態で動作したり、過熱による破損を防ぐためにも、CPUクーラーを適切に取り付ける必要があります。CPUファンコネクタは、最高600 mAまでの電流をサポートします。

2) PWR_FAN (電源ファンコネクタ)



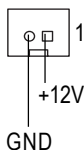
- このコネクタでは、システムにクーリングファンを接続してシステム温度を下げることができます。

3) SYS_FAN (システムファンコネクタ)



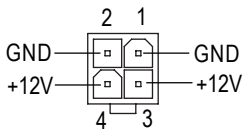
- このコネクタでは、システムケースにクーリングファンに接続してシステム温度を下げるすることができます。

4) NB_FAN (チップファンコネクタ)



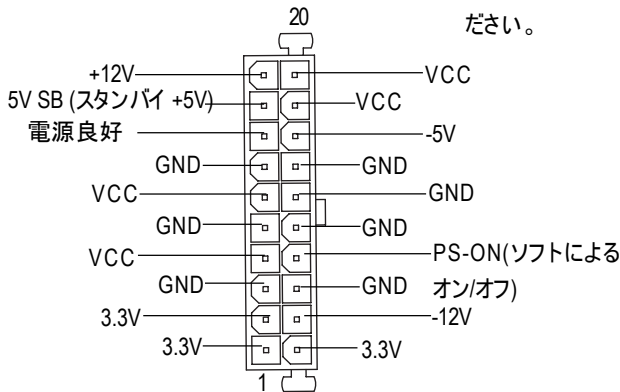
- 間違った方向に取り付けると、チップファンは作動しません。時には、チップファンを損傷させることもあります(通常、黒いケーブルはアース用です)。

5) ATX_12V (+12V電源コネクタ)



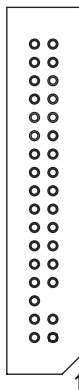
➤ このコネクタ(ATX_12V)はCPU操作電圧 (Vcore) を提供します。この" ATX_12Vコネクタ"が接続されていないと、システムは起動できません。

6) ATX (ATX電源コネクタ)



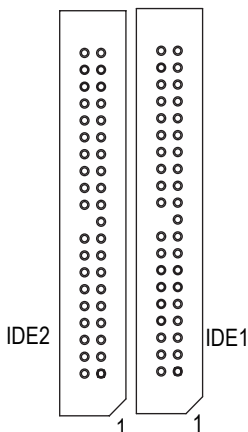
➤ AC電源コードは、ATX電源ケーブルとその他の関連デバイスをマザーボードにしっかり接続した後でのみ、電源装置に接続してください。

7) FDD (フロッピーコネクタ)



➤ フロッピードライブのリボンケーブルをFDDに接続してください。このコネクタは360K、1.2M、720K、1.44M、2.88Mバイトのフロッピーディスクのタイプをサポートしています。リボンケーブルの赤いストライプはピン1と同じ側にある必要があります。

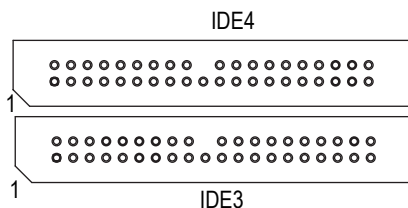
8) IDE1/ IDE2 [IDE1 / IDE2コネクタ(プライマリ/セカンダリ)]



➤ 重要な 通告:

まずハードディスクをIDE1に接続してから、CDROMをIDE2に接続してください。リボンケーブルの赤いストライプはピン1と同じ側にある必要があります。

9) IDE3 / IDE4 (RAID/ATA133、グリーンコネクタ)

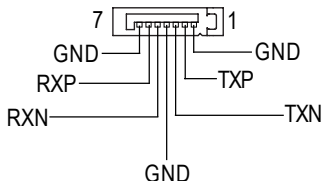


➤ 重要な 通告:

リボンケーブルの赤いストライプはピン1と同じ側にある必要があります。

IDE3とIDE4を使用したい場合、BIOSとともに使用してください(RAIDまたはATA133)。それから、正しいドライブを取り付けて適切に操作します。詳細については、ITE RAIDマニュアルを参照してください。

10) S_ATA1/S_ATA2 (シリアルATAコネクタ)



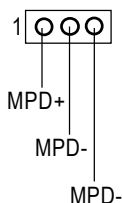
➤ シリアルATAデバイスをこのコネクタに接続すると、高い転送速度が得られます (150MB/秒)。

11) LED



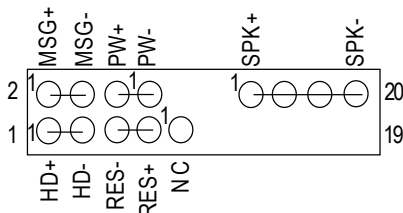
- LEDがオンになっている間は、メモリモジュールを取り外さないでください。2.5Vのスタンバイ電圧により、予期せぬ損傷を受ける原因となります。メモリモジュールの取り外しは、システムの電源がオフになっているときのみ行ってください。

12) PWR_LED



- PWR_LEDをシステム電源インジケータに接続すると、システムのオン/オフの状態を示します。PWR_LEDは、システムがサスペンドモードに入ると点滅します。デュアルカラーLEDを使用すると、電源LEDは他の色に変わります。

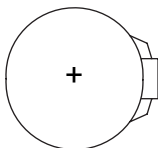
13) F_PANEL (2x10ピンコネクタ)



HD (IDEハードディスク アクティブLED)(青)	ピン1: LED陽極(+) ピン2: LED陰極(-)
SPK (スピーカーコネクタ) (琥珀色)	ピン1: VCC(+) ピン2- ピン3: NC ピン4: データ(-)
RES (リセットスイッチ) (緑)	開く: 標準操作 閉じる: ハードウェアシステムのリセット
PW (ソフトによる電源コネクタ) (赤)	開く: 標準操作 閉じる: 電源オン/オフ
MSG(メッセージLED/電源/ スリープLED)(黄色)	ピン1: LED陽極(+) ピン2: LED陰極(-)
NC(紫)	NC

- 上のピン割当てに従って、シャーシ前面パネルの電源LED、PCスピーカー、リセットスイッチ、電源スイッチなどをF_PANELコネクタに接続してください。

14) BAT (バッテリー)



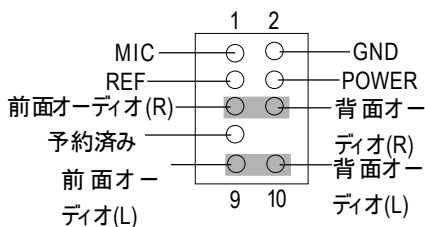
警告

- ❖ バッテリーを交換するとき向きを間違っていると、爆発する恐れがあります。
- ❖ メーカーが推奨するタイプのバッテリー、または同等のバッテリーと交換してください。
- ❖ 使用済みバッテリーの処分は、メーカーの指示に従ってください。

CMOSを消去する場合...

1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリーを取り出して、30秒待ちます。
3. バッテリーを再び入れます。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。

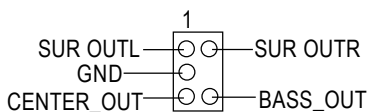
15) F_AUDIO (前面オーディオコネクタ)



- "前面オーディオ"コネクタをご使用になる場合、5-6, 9-10ジャンパを削除する必要があります。前面オーディオヘッダを利用するには、シャーシに前面オーディオコネクタを装備する必要があります。また、ケーブルのピン割当てがMBヘッダのピン割当てと同じになっていることを確認してください。ご購入になったシャーシが前面オーディオコネクタをサポートしているかどうかを知るには、販売店にお問合せください。

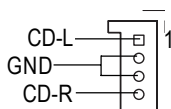
前面オーディオコネクタまたは背面オーディオコネクタを使用して、音声を出すことができます。

16) SUR_CEN



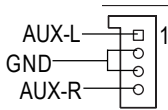
- オプションのSUR_CENケーブルについては、最寄りの販売店にお問合せください。

17) CD_IN (CDオーディオラインイン)



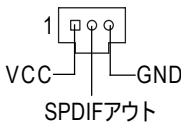
- CD-ROMまたはDVD-ROMオーディオアウトをコネクタに接続します。

18) AUX_IN (AUXインコネクタ)



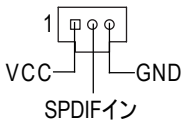
- その他のデバイス(PCI TVチューナーオーディオアウトなど)をコネクタに接続します。

19) SPDIF_O (SPDIFアウト)



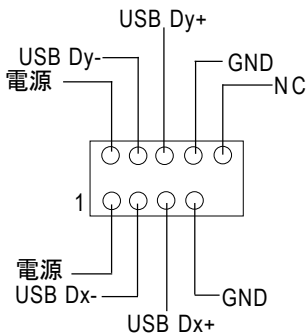
- SPDIF出力は、デジタルオーディオを外部スピーカーに、または圧縮されたAC3・データを外部のDolby Digital Decoderに提供することができます。この機能は、ステレオシステムがデジタル入力機能を搭載しているときだけご使用になれます。

20) SPDIF_IN (SPDIFイン)



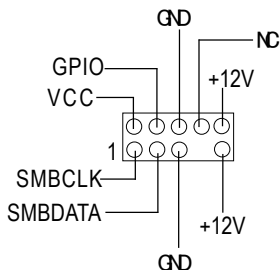
- この機能は、お使いのデバイスがデジタル出力機能を搭載しているときだけご使用になれます。

21) F_USB1/F_USB2 (前面USBコネクタ)

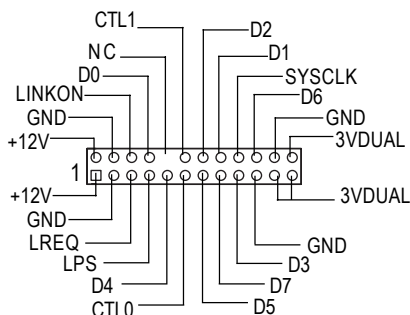


- 前面USBコネクタの極性に注意してください。前面USBケーブルに接続している間、ピン割当てをチェックしてください。オプションの前面USBケーブルについては、最寄りの販売店にお問合せください。

22) SMB_CONN

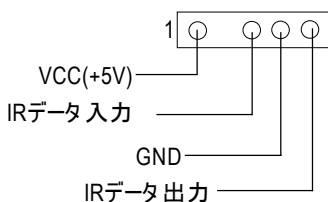


23) 1394 (IEEE1394コネクタ)



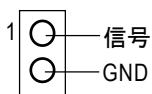
➤ 注: Institute of Electrical and Electronics Engineersによって設定されたシリアルインターフェイス標準で、高速で、高いバンド幅とホットプラグのような機能を備えています。

24) IR (IRコネクタ)



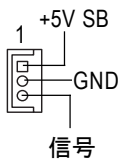
➤ IRを接続している間、IRコネクタの極性に注意してください。オプションのIRデバイスについては、最寄りの販売店にお問合せください。

25) CI (ケースオープン)



- この2ピンコネクタにより、システムはシステムケースの取り外しを開始するとき、BIOSの"ケースオープン"アイテムを有効または無効に設定することができます。

26) WOL (ウェークオンLAN)



- このコネクタにより、「サーバーの削除 (Remove Server)」はWOLもサポートするネットワークアダプタを介して、このマザーボードを取り付けたシステムを管理することができます。

